

熊本水絵巻

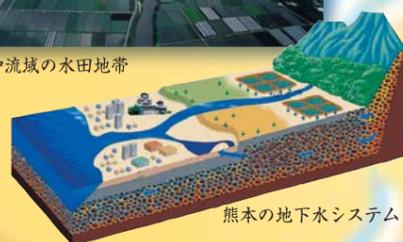
加藤清正公

日本最大の地下水都市・熊本は加藤清正公によって形作られた。

熊本の豊かな水は、先人たちの工夫や努力によっていつも守られてきました。特に、熊本城を作った加藤清正公は“土木の神様”と呼ばれ、治水・利水に類まれな力を発揮しました。清正公の偉業は、今も熊本の人々の生活の中に息づき、恩恵を与え続けているのです。



白川中流域の水田地帯



熊本の地下水システム

清正は、白川から農業用水を引くための堰や用水路を数多く整備する。阿蘇の噴火活動でできた水を透しやすい性質の水田から大量の水が地下に浸透。良質の地下水を育むことになる。世界有数のカルデラ・阿蘇がもたらした大地と、清正公はじめ先人の偉業が組み合わさり、今もお熊本67万市民の水道水源は100%地下水でまかなわれている。

本妙寺所蔵

日本一の名水

熊本の地下水システム



清正堤



江津湖

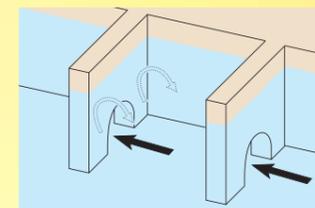
緑川の治水のため、支流の加勢川沿いに築かれたのが清正堤である。この堤により、豊富な湧水のせいで湿地帯だった土地は、米の生産地帯に生まれ変わり、一方、堤の外は湧水が集まって、今の江津湖が誕生する。都市の中であって、約600種の動植物が生息する江津湖は、清正により形作られたのである。

白川・坪井川の付け替え・分流



清正は、熊本城が完成すると、城のすぐ南側を蛇行する白川を直線化し、外堀として防衛線を強化しつつ、新河道との間に生じた土地に城下町を整備。また白川から分流した坪井川を水運に利用し、城下の物資輸送を盛んにする。二本木地区に残る「背割り石塘」は日本で最初の分流工事とされる。都市計画・防衛など多角的な戦略が見て取れ、土木の神様・清正公の代表的な土木事業といえる。

清正堤と江津湖



鼻ぐり井手水流図



鼻ぐり井手は、現在の菊陽町・馬場楠堰井手に残る清正独創の工法である。井手（用水路）を壁で仕切る構造とし、壁の底部中央に穴を開け、底の水の流れを速くし、阿蘇特有の火山灰土（ヨナ）が底に溜まるのを防いでいる。深く開削した用水路は、人力で水路のヨナをさらうことが難いため、このような仕掛けを考案したと考えられる。今も現役の用水として市内の水田を潤している。



白川



坪井川

鼻ぐり井手



川尻の船着場

川尻の船着場は、加勢川河口に位置する清正時代の海外貿易港である。御蔵の船着場ともいい、年貢米集積の拠点でもあった。清正は、海外貿易を行い、行財政に手腕を振るった。武将・軍人のイメージが強い清正だが、秀吉のもとで主計頭（財務省主計局長に相当）を務めるなど、優れた財政感覚を持っていた。

清正の治水五則（治水のこころ）

- 一、水の流れを調べる時、水面だけでなく、底を流れる水がどうなっているか、特に水の激しく当たる場所を人念に調べよ。
- 一、堤を築くとき、川に近い所に築いてはいけない。大河の近くでは、どんなに大きな堤を築いても、堤が切れて川下の人々が迷惑する。
- 一、川の塘や、新地の岸などに、外だけ大石を積み、中は小石ばかりという工事をすれば、風波の際には必ず破れる。魚石に深く心を注ぎ、どんな底部でも手を抜くな。
- 一、遊水の用意なく、川の水を早く流すことばかり考えると、水はあふれて大災害を被る。また川幅を定めるときには、潮の干満、風向きなどをよく調べよ。
- 一、普請の際には、川守りや年寄りの意見をよく聞け。若い者の意見は、優れた着想のように見えても、よく検討してからでなければ採用してはならぬ。

加藤清正公略年表

- 1562 (永禄5) 尾張国に生まれる。幼名夜叉若
- 1574 (天正2) 秀吉とねねの元で育てられる
- 1576 (天正4) 元服し秀吉から加藤虎之助清正の名と170石を与えられる
- 1583 (天正11) 賤ヶ岳の合戦で功を挙げ、「賤ヶ岳の七本槍」の一人に数えられる
- 1585 (天正13) 関白秀吉から主計頭に任ぜられる
- 1588 (天正16) 肥後半国25万石の大名となる
- 1592 (文禄元) 朝鮮出兵文祿の役
- 1596 (慶長元) 朝鮮出兵慶長の役
- 1600 (慶長5) 関ヶ原の戦いの功により、肥後一国54万石を与えられる
- 1607 (慶長12) 熊本城完成、隈本を熊本に改める
- 1611 (慶長16) 6月24日熊本城で逝去

主な治水・利水事業

菊池川水系	菊池川堀り替え (玉名市) 小田牟田新地の干拓 (玉名市) 横島の石塘 (玉名市)	
白川水系	瀬田下井手堰 (大津町) 馬場楠堰・鼻ぐり井手 (菊陽町) 白川・坪井川の付け替え・分流 (熊本市) 渡鹿堰 (熊本市)	
緑川水系	清正堤 (熊本市) 御船川堀り替え (嘉島町) 鶴の瀬堰 (甲佐町) 桑鶴のくつわ塘 (城南町・嘉島町)	
球磨川水系	遙拝堰 (八代市) 萩原堤 (八代市) 新牟田新地の干拓 (八代市)	



水といのちが循環する 美しい都市生活



水と暮らし

水とともに生きる

くまもとの新しい

ライフスタイルの提案です。



水と遊ぶライフスタイル

待ちに待った夏になると、江津湖には子どもたちが泳ぎに訪れます。水の中では、子どもたちはさまざまな遊びを見つける天才に。見守る大人たちも、つい水の中に足を入れてしまいます。大人たちが子どもの頃から、ずっとそこにある風景。そんな時間を忘れる楽しいひとときは、水の豊かな環境があるからこそ。水と遊ぶ生活が、熊本には根付いているのです。



水で食を育むライフスタイル

「食」といっても、生産から消費まで、さまざまな場面があります。その中で、大きな役割を果たしているのが水です。熊本の良質な水を使ったお酒や農作物、加工食品、料理もおいしいものばかりです。ヘルシーな熊本名物の太平燕(タイビーエン)も熊本の水をたっぷり使っています。良質な水のおかげで私たちは豊かな食生活を営むことができます。



「みずあかり」の装飾された灯り

水に感謝するライフスタイル

「みずあかり」の開催中、坪井川には竹で作った灯籠が浮かべられ、宝石をちりばめた万華鏡さながらの風情です。揺らめく炎と流れる水、そして、上空にライトアップされた熊本城が浮かび上がり、異世界に迷い込んだようなひとときを体験できます。いつのまにか、自分の周りのすべてのものに感謝する気持ちがわき起こってきます。



早起きして、水前寺成趣園の長寿の水を飲む市民

水で健康と活力を育むライフスタイル

早起きして水前寺成趣園に集まり、水を飲む会があります。毎日適量の水を飲むことは健康に良い影響を与えているといわれています。人間の体からは、起きている間も寝ている間も、毎日多くの水分が出ていきます。水を飲んで、水分を補給することは、体を維持するためにも必要なことです。水を飲むことは健康づくりの基本です。



水に憩うライフスタイル

熊本には、清冽な地下水が湧き出る江津湖や水前寺成趣園など多くの湧水地があり、白川や緑川などの川がゆるやかに流れています。水面を眺めていると、疲れがとれたり、気分がリフレッシュされます。普段の生活に少しだけ「水に憩う」ことを取り入れて、心を休める時間をつくってみてはいかがでしょうか？



水を守るライフスタイル

熊本の水循環は、降った雨の3分の1が地下水になり、3分の1が川になって、残り3分の1が蒸発して雲になります。しかし、川や海がゴミで汚されたり、地下水をかん養する農地や林が減ったり、水環境は人間の活動によって大きな影響を受けています。私たちが、水循環の現状に関心を持つことが、水を守ることになるのです。水辺に落ちているゴミを拾う、そんな簡単なことから水の保全是始まるのかもしれない。

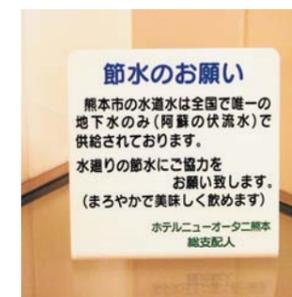


「藤崎宮絵縁起」
(部分、藤崎八幡宮所蔵)



水に学び語るライフスタイル

現在は「飾り馬」で有名な藤崎宮例大祭ですが、神仏習合の時代には、「放生会(ほうじょうえ)」と呼ばれる行事がありました。藤崎宮の放生会は、井芹川で行われた仏教に由来する行事です。僧侶がお経を上げ、魚を川に、鳥を空に放ちます。古くから熊本の人々は、人間と水に生きる生物や鳥たちとの関係を大切にしてきました。



私たちの生活そのものが ウォーターライフです。

ここに、熊本市内にあるホテルの客室に置かれたプレートがあります。他県からのお客様に向けたこのプレートに、熊本の水への自信がかいま見られます。そして、熊本の「水のある暮らし」を大切にしていることが私たちの誇りであり、その暮らしそのものが私たちの「ウォーターライフ」なのです。

くまもと ウォーターライフ 宣言

わたしたち熊本市民は21世紀という環境の世紀の担い手として、「天然地下水～ミネラルウォーター100%」という自然の恵みに感謝し、水に憩い・遊び、水で健康を育む快適な日常生活を営むとともに、この豊かな生活を支える水循環機能の再生・保全活動に取り組み、水といのちが循環する美しい都市生活「くまもとウォーターライフ」を確立し、これを広く内外に発信するとともに、次世代、そして次世紀へ継承します。

2006年 熊本市



自然の力で天然水が湧き上がる熊本市水道局健軍水源地